

評価委員会総合評価

研究課題名：気象レーダーを用いた噴煙の汎用的解析手法に関する研究

評価委員

委員長：竹内義明

委員：高薮出、大野木和敏、石原幸司、前田修平、山田雄二、青梨和正、
鈴木修、石井雅男、橋本徹夫、齋藤誠、行本誠史、丸本大介

評価年月日：令和2年2月17日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、地方官署における気象レーダー網を用いた汎用的な噴煙解析技術を確立することを目的とし、悪天時の噴煙監視という地方のニーズに即した研究課題である。

本研究により、気象レーダーによる火山灰観測の基礎的ツールが開発された点は、噴煙研究や監視業務にも意義があったと考えられ、評価できる。一般レーダーだけでなく、DRAWやXRAINのデータにも適用可能と思われるツールを開発した点も評価できる。成果が本庁観測部担当にも共有されていることは良かった。

一方、本研究には多くの地方官署の人が参加しているものの、共同研究相手が特定の個人に偏り過ぎており、他の研究参加者への知見の共有が十分できているか懸念される。

以上のことから、本研究は、概ね適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

なお、今後の成果の活用にあたっては、以下に留意して、取り組んで欲しい。

- ・今後、他の研究課題で進めている目視観測結果との整合性の評価などを進め、より信頼性の高い火山噴煙ツールの作成を目指して頂きたい。
- ・夜間や曇天・雨天時などにも観測可能であり、客観的な測定が可能なレーダーデータの利用には将来性がある。本ツールの開発の成果が、現象の解析や新たな解析手法の開発、二重偏波レーダーへの応用などにつながることを期待したい。
- ・成果が関係課内に広く共有され、成果の論文化を期待する。
- ・成果のアピールに努めて頂きたい。
- ・レーダーの新たな活用法となるのではないかな。